国語と朝鮮語[[1]](#footnote-1)

香山光郎

熊野神社のおまもりを開けると

「이사나미나미ㄱㅗㄷㅗ

이사나기나미ㄱㅗㄷㅗ

ㅅㅜ사나ㅇㅗ나미ㄱㅗㄷㅗ」

と書いてある。これは千二百年より以前に書かれた御位牌であつて、古事記にもこの神代文字で書かれた本があるさうである[[2]](#footnote-2)。この文字は今日は朝鮮だけで使はれてゐるが、もともと内鮮が分かれる前の文字であつたらう。

しかも朝鮮語で、娘のことを다라即ち딸といふのではないか。それだけではない。素盞嗚尊の御行蹟が、まことに「사나ㅇㅗ」一語によく見はれてゐるではないか。

同時では[[3]](#footnote-3)、内地では、天照大神を國祖としてあがめ、朝鮮では素盞嗚尊を祭つたことも自ら分明する[[4]](#footnote-4)。

朝鮮にも、村ごとに神社があつたし、今でも、その遺風が殘つてゐて、或は春秋二回、或は、秋一回村中祭つてゐるのであるが、その祭神は、「서낭님」と申上げてゐる。

「서낭님」とは「사나기님」であるはずだ。即ち、이사나기나미ㄱㅗㄷㅗの御事であることいふまでもない。

さて、これを分析して見よう。

「이사」はᄋᆞᄉᆞ [から]來たことばで、ᄋᆞᄉᆞは國語の、アサ（朝）、サ（早）、イザ（始める義）、今日の朝鮮語の아조아츰、일즉、잇서、어서の語[源]で、最初の義である。開闢の初の義だ。아가나다라마바사が原始音で、ㅈㅊㅎㅌㅍㅋは後世になつて出來上がつた音であることはいふまでもない。

「나」は今日では、「ナ」、「ノ」、「ㄴ」、「는」、「네」となつて殘つてゐる。「미」はᄆᆞであつて、天、日、母、上、食物、王などの義だ。

ᄋᆞᄆᆞはアマ（天）、オモ（母）、であり、朝鮮語では어마、어미である。天、日は萬物の母である。だから

「이사나미나」

は、「最初の母にまします」といふ意味である。

「미ㄱㅗㄷㅗ」はᄆᆞᄀᆞᄃᆞで、「ᄆᆞ」は天、日、高、尊の義で、ᄀᆞᄃᆞ即ちコト、고도はクビの義である。カタは肩になつてゐるが、肩と首との總稱であり、首は息をするところであつて、生命の義となるのである。ミコトに命の字を當てるのは當然だ。今日でも、死ぬことをコトキレルといふ。コトとは命のことだ。

さて朝鮮語ではだうかといふに、首から肩にかけてを、고두（コト）といつてゐる。また、「壽」の字を綴つて小兒の上衣の肩に付けることを고두바기といつてゐるが、これはいふまでもなくコトブキ（壽）である。

であるから、

「이시나미나미ㄱㅗㄷㅗ」

は最初の母にましますお方の義である。

次に

「이사나기나미ㄱㅗㄷㅗ」

について見よう。

「이사나」はすでに説明した通りだ。「기」は「ᄀᆞ」で、動を表はす語だ。ク、イク、ユク、가、-거（머거、사거等）の語源である。ᄋᆞᄀᆞは、男性で、ᄋᆞᄆᆞは女性である。ᄋᆞᄀᆞこそは新羅語のᄇᆞᄀᆞ（暁、男兒）、國語のヒロの語源であり、ᄋᆞᄆᆞは新羅語のᄇᆞᄆᆞ（晝、女）、國語ではヒメの語源である。であるから、「이사나기나」は最初の男性にまします、即ち最初の父にましますの義である。

しからば「ㅅㅜ사나ㅇㅗ나」（スサノオ）は、如何なる意味であるか。

「ㅅㅜ」はᄉᆞでᄉᆞは雄、即ち男性のことである。朝鮮語では今日でも、男性のことを「수」といつてゐる。「수사돈」に見るが如くである。國語では「セ」となつて居り、セノキミ、イモセに見るが如くである。イミセとは朝鮮語に於けるᄋᆞᄆᆞᄉᆞ即ち암수であることいふまでもない。セが背でないことは勿論で、夫が背の君であらうはずがない。

であるから「ㅅㅜ사나ㅇㅗ」の「ㅅㅜ」は男の義である。

「사나인」（サナヲ）は、今日の朝鮮語の사나이(男、夫)、사나오（猛）であり、國語では、佐野、瀬野、信夫などの苗字又は男性の名前として殘つてゐる。

天[照]大神は素盞嗚尊の御姉君にまします。アマは天であり、日であり、女性である。ᄋᆞᄆᆞ、암である。因みにテラ、テル（照）は、今日の朝鮮語では다라といつてゐる。다라とは、燃える、光る、熱するの義である。

しからば

「이사나미나미ㄱㅗㄷㅗ

이사나기나미ㄱㅗㄷㅗ

아마다라ㅇㅗㅎㅗ가마

ㅅㅜ사나ㅇㅗ나미ㄱㅗㄷㅗ」

で、四柱のおん親子の意義がはつきりすることであらう。

1. 『新時代』1942年6月号 [↑](#footnote-ref-1)
2. 神代文字は日本の神話時代から伝わるとされる文字だが、実は亀甲占いのひびやハングルを模した偽作と見られている。様々な種類があり江戸時代からその存否について論争があった。熊野神社は各地にあり李光洙が挙げている熊野神社がどこかは不明。 [↑](#footnote-ref-2)
3. 「同時では」は「同時代に」のことか。 [↑](#footnote-ref-3)
4. 「自ら分明する」は「明らかである」の意か。 [↑](#footnote-ref-4)